

## 会議録

会 議 の 名 称	令和4年度第13回新城市若者議会
開 催 日 時	令和5年2月3日（金）午後7時から午後9時まで
開 催 場 所	市役所4階会議室
会 議 の 内 容	令和4年度第13回新城市若者議会 ・若者議会からの活動報告 ・市議会との意見交換

### 1 若者議会議長あいさつ

2 若者議会からの活動報告  
各委員会から3つの事業について説明をした。

### 3 市議会との意見交換

各委員会ごとにわかれ、市議会議員の方々と事業についての意見交換が行われた。意見交換の内容は以下のとおりである。

観光委員会	<p>①（市議会議員質問） 佐賀市の事例についてどのようなものか詳しく教えてほしい。</p> <p>（若者議会委員回答） 最寄りの空港に直行便が就航している国をターゲットとして広告を実施し、広告後に外国人にアンケートを行ったところ23.7パーセントの人が広告を見たと回答している。</p> <p>（市議会議員質問） 具体的にどのようなPRをしているか。2200万回再生されているとのことだが、かなりのインパクトや意外性があるはずである。YouTubeの広告はスキップされてしまうが、意外性などのアイデアはあるか。</p> <p>（若者議会委員回答） 起承転結でストーリーを考えている。最初の5秒で転の部分の一部見せ、そこに繋がるような内容を展開していくことで、スキップを防ぐ。</p> <p>（若者議会委員回答） 自分がスキップボタンを押さない動画がどのようなものか考えてみたところ、ドラマ仕立ての広告であったら最後まで</p>
-------	--

見たくなると考え、ストーリー仕立てのものにしようと考えた。

②（市議会議員質問）

この事業を考えるに至った経緯を教えてください。どのようにしてこのメンバーになったのか。

（若者議会委員回答）

旅行をするときにそもそも知っていないと来てくれないため、まずは新城のことを知ってもらうことに重点を置いた結果、YouTube動画広告のアイデアに至った。

③（市議会議員質問・意見）

YouTubeは確かに見ている人の母数は多いが、InstagramやTwitterしか見ない人には届かない。複数のメディアを使って広告しようという考えはなかったか。YouTubeだけに絞った理由を教えてください。

（若者議会委員回答）

Instagramについては、過去の若者議会で作成したものを再利用しようとして今動いているところである。Twitterについては今のところ考えていない。今後InstagramからYouTubeのページに飛べるようにすることも考えていきたい。

（市議会議員意見）

一部のアプリしか使っていない人にしか届かないとせっかく良い動画を作ってももったいないことになってしまうので、また検討していただければと思う。

④（市議会議員質問）

宣伝広告委託費100万円の内訳を教えてください。

（若者議会委員回答）

愛知県と浜松市の小学生低学年以下の子どもがいる親を対象としており、予想ターゲット数が481,078人である。予算100万円だと、ターゲットの14パーセントの人に見てもらえることができる。

⑤（市議会議員質問・意見）

将来の子どもを連れて遊びに来てほしいという考えについては、着眼点がとても良いと感じた。自分たちが考える新城の魅力は何か。どんなことを感じてほしいか。またどのようなどころをPRしたいか。

（若者議会委員回答）

総合公園や山びこの丘、滝など、自然に触れて子どもたちが遊べるところが魅力だと思う。

（若者議会委員回答）

疲れたときに1人で癒やしを感じられるところが魅力だと思う。

⑥（市議会議員質問）

Y o u T u b e の宣伝で商品を買った人はいますか。どんなものを買いましたか。

（若者議会委員回答）

シャーペンが好きで、シャーペンの広告が流れてきたときに構造などを知ることができて、購入した。

⑦（市議会議員質問・意見）

今回の事業予算の大半がY o u T u b e 広告の委託費であるが、効果があるのか疑問に思うところである。動画の制作費についてはどのように考えているか。

（若者議会委員回答）

もともとは業者委託も考えていたが、モデルについてはコストの面から公募を行うことにした。セリフもないため、むしろ公募にすることで自然体を映すことができると考えている。撮影についてはこちらで行う。

（市議会議員質問・意見）

いくら目にとまっても動画が良くないと見てもらえない。動画制作のほうにも力を注いでいただくのが良いと思うが、予算的にはその部分が反映されていなかった。節約しながら努力されているということであれば、ぜひそのような方向を持っていただきたい。公募については参加者を増やすという点でも素晴らしいと思う。皆さんが役者として動画に出ることにより理解も深まると思う。

（市議会議員質問・意見）

Y o u T u b e 広告は5秒でインパクトを与える必要がある。Y o u T u b e 広告の良いところは多くの人が見てくれるところであるが、見過ごされてしまう。それについてどのように考えているか。

（若者議会委員回答）

私たちのほうでも5秒でスキップされてしまうことに関しては議論にあがっていた。その対策として、最初の5秒で「これは何だろう？」と思わせるような内容にすることで、続きも見たいと思ってもらう。最後に伏線回収をするようなドラマ仕立てのものを考えている。

（市議会議員意見）

最初の5秒でストーリー性を伝えられるかが不安である。いきなり出てきたときに何かメッセージがなければ難しいかと思う。やってみないと分からないが、素人が作ると空振り

の可能性もあるところが怖いところである。制作費にお金を使ったほうが費用対効果が高くなる可能性がある。使うべきところには使ったほうが先につながっていくと思う。

(市議会議員意見)

皆さんは既にアイデアを持っているかと思いますが、5秒でも十分にインパクトを伝えることはできると思う。映像のつなぎ方等で見ている人に短い時間でどれだけ伝えるかということにはテクニックがある。様々な動画を参考にすると良いと思う。

(若者議会委員回答)

自分たちがストーリー仕立てにしようと思ったのは、YouTubeでAmazonプライム・ビデオのCMが流れてきたのを見て、感動したからである。最初の部分も印象に残っているため、ストーリー仕立てにしてあとが気になるような構成にしたら飛ばされないと考えた。プロに頼んだほうがクオリティーの高いものができると思うが、頼むと自分の伝えたいことを伝えてもらうのが難しいかもしれない。コストの面もあったが、自分たちの気持ちを踏まえて作ることで新城市の魅力を伝えることができると考えた。

(市議会議員意見)

気持ちだけでは伝わる、伝わらないが難しい。プロは広い方に伝わるようにつくるための知識を持っている。

(市議会議員意見)

今のことを現実化できるのがプロだと思う。自分たちがやりたいことをやる事業なのか、自分たち以外の人たちに見てもらいたい事業なのかを考えてみると良いと思う。

⑧(市議会議員質問)

動画は誰がどのように作成するのか。

(若者議会委員回答)

自分たちで撮影する予定。もともとは業者への委託を考えていたが、自分たちの思いが伝えられるかがわからなかったため、自分たちで撮影することになった。

(市議会議員質問)

この事業が実施されるのは来年度であると思うが、来年度は新たなメンバーが入ってくるため、皆さん自身の責任としてどのように考えているか。

(若者議会委員回答)

内容や映す場所は決まっている。撮影や編集については、動画に詳しい市の職員が行う。撮影の際には同行する予定である。

⑨（市議会議員質問）

Y o u T u b e 広告はどのようなタイミングで表示されるか。

（若者議会委員回答）

メインの動画が流れる前に表示される。

（市議会議員意見）

いつも広告をスキップしてしまうため、飛ばされない広告をつくるためには映像の制作に高度なテクニックが必要だと思う。

⑩（市議会議員質問）

動画の長さはどれぐらいか。

（若者議会委員回答）

2分である。

（市議会議員意見）

2分は見られないかと思う。

⑪（市議会議員質問）

スキップできるものとできないものなどいくつか種類があると思うが、それに関して何か戦略はあるか。

（若者議会委員回答）

自分がつい最後まで見てしまう動画は、最初の部分に「これは何だろう？」という疑問があり、途中でその伏線が回収され、最後に感動するというものである。今回もそれに倣って作成する予定である。

⑫（市議会議員質問）

子どもを持つ親に見てもらえるようにということであるが、その人たちが求めるようなメインの動画の前に流すということか。どのように流すのか。

（若者議会委員回答）

Y o u T u b e がターゲットの興味のあることをデータとして持っているため、関心のある人だけに流すようにすることができる。年代なども設定することができる。

⑬（市議会議員質問）

目標視聴回数20万回の設定理由は何か。

（若者議会委員回答）

企業の方にシミュレーションしていただいたが、費用100万円だと20万回程度の視聴回数が見込めるとのことであった。今後市で利用してもらうためのデータとしても、このくらい視聴回数が妥当であると判断した。

⑭（市議会議員質問）

最後まで見てくれたのか、途中までしか見られなかったか

	<p>なども知ることができるか。</p> <p>(若者議会委員回答)</p> <p>それについても集計が可能である。</p> <p>⑮ (市議会議員質問)</p> <p>20万回という視聴回数は、スキップボタンが出た後も見続けてくれた人の数ということか。</p> <p>(若者議会委員回答)</p> <p>30秒以上の視聴が1視聴回数としてカウントされる。そのため、スキップした人にはお金がかからない。</p> <p>⑯ (市議会議員質問)</p> <p>100万円という委託料はどういった金額か。</p> <p>(若者議会委員回答)</p> <p>ターゲットが愛知県と浜松市の小学校低学年以下の子どもを持つ親であるが、その数が約48万人であり、その約14パーセントの人たちに届けることができるというシミュレーションが出ている。</p> <p>⑰ (市議会議員質問)</p> <p>紹介する場所は既に決まっているとのことだったが、どこを紹介するか。</p> <p>(若者議会委員回答)</p> <p>もっくる新城、山びこの丘、桜淵公園、総合公園等を予定している。子どもたちが楽しく遊べるような場所を選んだ。</p> <p>⑱ (市議会議員意見)</p> <p>このような事業は結果を出す必要がある。目的は家族が新城の観光地に遊びに来てほしいということであると思うが、PR動画をつくり、YouTubeで流したというのが結果ではない。流したで終わらず、新城に行きたいと思ってもらえるかというところまで考えて頑張ってもらえたらと思う。</p>
<p>交流委員会</p>	<p>① (市議会議員質問)</p> <p>ヤングほのかの詳細は、次期若者議会のメンバーに託すのか。今の交流委員会が検討するのか。</p> <p>(若者議会委員回答)</p> <p>今期の交流委員会で現在内容の土台を作っており、その内容をもとに来期の若者議会のメンバーを中心に具体的に作成してもらう。</p> <p>② (市議会議員質問)</p> <p>ヤングほのかを作成する人はどの段階で募集をかけるのか。</p> <p>(若者議会委員回答)</p> <p>現在未確定であり、今後検討していく予定。</p>

③（市議会議員質問）

発行が8月、10月、1月、4月となっているが、不規則ではないか。何か意味があるのか。

（若者議会委員回答）

8月は地域のイベントが多い次期であり、その前に発行することでイベント集客促進の効果がある。

また、スケジュールの関係で余裕を持ち作成できるように初号を8月にしている。

④（市議会議員質問）

若者はSNSやインターネット媒体で情報を収集すると感じる。なぜ紙媒体を必要と考えるのか。

（若者議会委員回答）

若者だけでなく、インターネットを使わない、使えない方にも届けたい。紙媒体にすることで、誰かと一緒に見ることもできると考え、そこで交流が生まれると考える。

⑤（市議会議員意見）

市全体の情報を掲載する必要がある。一部に偏らず、友人や家族など、多くの色々な人から情報を集めたほうがいい。

⑥（市議会議員意見）

事業を行うには効果・評価が求められる（地域イベントの参加者の増加数など）。評価をする努力をしないと、提案しただけになってしまう。そのあたりも意識し考えるとよいかと思う。

（若者議会委員回答）

効果・成果を確認する方法としては2つ考えている。

1. 配布数と残数から手に取られた数を調査する方法。
2. ヤングほのかにアンケートコーナーを設け、満足度や実際にイベントに行ったか、などコンテンツによるものも調査しようと考えており、継続的に運用していくために活かしていく予定である。

⑦（市議会議員意見）

外国人がどう思っているのかに加えて、日本人がどうやって接したらいいかなども伝えるといい。外国人の方と接することが多い日本人の方に聞いてみるのもいい。

⑧（市議会議員質問）

実際の交流につなげるということは考えているか。

（若者議会委員回答）

イベント情報やボランティア情報を掲載する予定であり、その情報を知ることによって参加する若者も増え、交流が促進されるのではないかと考える。

⑨（市議会議員質問）

若者議会のメンバーだけでなく、8月からヤングほのかでボランティアを募集するということだが、遅いのではないか。

（若者議会委員回答）

現在未確定であり、今後検討していく予定。次年度は試験的な運用でもあり、継続的な実施が必要であると考えている。

⑩（市議会議員質問）

来年以降も皆さんも携われたら携わっていくということか。

（若者議会委員回答）

携わっていきたい。

⑪（市議会議員質問）

外国人との交流の情報はどうやって収集する予定か。

（若者議会委員回答）

国際交流協会の協力を仰ぎ、外国人の困ったことや驚いたことなどをアンケート調査を実施し、情報を収集する予定。

⑫（市議会議員質問）

記事はどのように準備をするか。

（若者議会委員回答）

今期の交流委員会で現在内容の土台を作っており、その内容を基に来期の若者議会のメンバーを中心に具体的に作成してもらおう。

⑬（市議会議員質問）

季節や時期は意識しているのか。

（若者議会委員回答）

している。

⑬（市議会議員意見）

広報は大事なものである。紙媒体は老若男女目を通してもらえるものであるため、効果的に実施してほしい。

⑬（市議会議員質問）

交流委員会は、交流をしたい委員が集まったということ認識で間違いないか。

（若者議会委員回答）

間違いない。

⑬（市議会議員質問）

新城市では若い人が交流するイベントが少ない印象がある。その点はどう感じているか。

（若者議会委員回答）

当初は新城市には交流するイベントは少ないと感じていた。ただ調べてみるとたくさんあり、若者に情報が届いていないということが問題点だと感じた。新しくイベントを実施するという意見も出たが、そういった点から、今あるものを知ってもらうことで交流促進することが大切だと考えている。

⑭（市議会議員質問）

SNSが若者には1番届くと考えている。紙で配ろうとしても若者に届くのか心配。SNSでは具体的にどういった周知を行う予定か。

（若者議会委員回答）

SNSでも紙媒体と同じ内容のものを発信する予定。デジタル上で見てもらうことと、紙媒体でより多くの世代の方に見てもらう2つの手段を想定している。

⑮（市議会議員質問）

使用するSNSは想定しているか。

是非SNSでもアップするのであれば効率的に届けられるように考えてもらいたい。

（若者議会委員回答）

若者議会ホームページ、Instagram、Twitter、市の公式LINEなども活用していきたいと考えている。

⑯（市議会議員質問）

SNSだけでなく、あえて紙媒体を活用する理由はあるか。

（若者議会委員回答）

若者がターゲットではあるが、インターネットを使えない小さい子供や高齢者の方など幅広い層にも届けたいと考えている。また紙媒体で見ることにより、友人や家族同士一緒に見る機会にもつながる、そこでも交流促進が期待できる。

⑰（市議会議員意見）

ヤングほのかを見た年配の人たちが、若者のことを知れたり、若者と高齢者の心のつながりができると感じる。今後もしっかりと検討して行ってもらいたい。

⑱（市議会議員質問）

子供の頃に比べて、あいさつをする頻度は減ったか。しづらくなかったか。

（若者議会委員回答）

東郷地域はあいさつが盛んだと感じる。だが、それでも大人になっていくにつれてあいさつはしづらくなってきている。

⑲（市議会議員意見）

先日小学校にいったら同じようにイベント情報などは知られていなかった。このヤングほのかで知るきっかけになればとてもよい。

⑳（市議会議員質問）

ヤングほのかが完成したことを周知する方法は何か考えているか。

（若者議会委員回答）

若者議会ホームページ、Instagram、Twitter、市の公式LINEなども活用していきたいと考えている。

㉑（市議会議員質問）

1回の掲載で10万円ほど予算計上しているが、何部印刷する予定か。

（若者議会委員回答）

年間9,640部を予定しており、1回あたり2,400

部作成する計画。

②（市議会議員質問）

どういったところに配布する予定か。

（若者議会委員回答）

駅やコンビニ、その他小さい子供や高齢者も訪れるであろうピアゴやスーパー、公共施設なども検討している。小中高校にも配布する予定である。

③（市議会議員質問）

予算金額はかなり安く感じるが、見積は徴収しているか。

（若者議会委員回答）

見積は徴収している。あらかじめ交流委員会でデザイン等も検討しているため、一から業者がデザインを作成する必要がないということを含めて積算されている。

④（市議会議員質問）

日常的な交流とは、どういったものだと考えているか。

（若者議会委員回答）

地域、身近なところでのあいさつなどのコミュニケーションだと考えている。話し合いの中では、私たちでも隣近所の方の名前すら知らない現状があった。そういった現状も変えていきたい。

⑤（市議会議員質問）

掲載内容があまり面白そうに感じない。ほぼ広報ほのかの内容ではないか。若者が見たいものはこういったものなのか。なぜこの内容を検討したのか教えてほしい。

（若者議会委員回答）

現在交流委員会で内容の検討しており、交流促進はもちろん、若者目線で若者が楽しめる内容を考えている。

例えば、新城ローカルニュースでは若者体験記として「〇〇やってみた」など鳳来寺山でタイムトライアルをおこなったり、募集コーナーで新城あるあるを募集したりして若者の声も反映していく予定。

⑥（市議会議員質問）

文章のみで動画などは検討していないのか。

（若者議会委員回答）

写真を多く活用する予定。

⑦（市議会議員質問）

SNSではPDFで掲載ということだが、若者は広報紙とかをスマホで見ているのだろうか。新城市に興味がある人でないと見ないのではないか。

（若者議会委員回答）

広報ほのかは見ている。だが周りは見えていない人も多い。

⑧（市議会議員意見）

ヤングほのかの中でも全部が興味のある内容ではないと思う。PDFはキーワード検索もできない可能性もある。まずは、若者に見てもらえるだろうか、若者のもとへ届くのかという点が課題になってくると思う。

⑳ (市議会議員意見)

動画の方がバズるのではないか。例えば広報紙の中に二次元コードを掲載して、動画に飛ぶとか。取材する記事であれば、その取材風景を動画に載せるとかしたほうがいい。読むより、観る人だっている。

㉑ (市議会議員意見)

広報ほのかとの差別化になっていない気がする。せっかく掲載するなら、どこにも載っていないような情報を探してきて載せたり、広報ほのかとは全然違うものをつくってほしい。若者が観るものにしてほしい。

㉒ (市議会議員質問)

SNSも検討しているか。具体的な媒体は何か。

(若者議会委員回答)

若者議会ホームページ、Instagram、Twitter、市の公式LINEなども活用していきたいと考えている。

㉓ (市議会議員質問)

広報ほのかで最近見た記事は何か。

(若者議会委員回答)

若者議会の記事であったり、国際交流の記事は興味がある。

㉔ (市議会議員質問)

地域での交流として具体的にどういったイベントを掲載する予定でいるのか。

(若者議会委員回答)

翌年度実施する際に季節毎に行われるイベントなどの中から選んで掲載する予定。また、現時点で翌年度開催が決まっているものもあるかもしれないが、多くはまだ決まっていない。そういった理由もあり、現時点で掲載できるイベントがまだわからないため確定しているわけではない。ただ、例えばだが、東郷学び学校や防災キャンプとういった地域協議会から情報を収集し掲載していくことも考えてる。

㉕ (市議会議員質問)

交流のきっかけ作りとあるが、どうやって交流してもらおうつもりなのか。

(若者議会委員回答)

実際にイベントに参加してもらうことでうまれる交流もあると考えている。

㉖ (市議会議員質問)

国際交流の内容があるが、国際交流協会の活動を助成するようなものか。国際交流協会のイベントも載せていく予定か。若者の参加も促す予定か。

(若者議会委員回答)

国際交流協会の協力を仰ぎ、外国人の困ったことや驚いたことなどをアンケート調査を行い、掲載する予定。国際交流協会のイベントも含め掲載できたらと考えている。

	<p>③⑥（市議会議員意見） 若者のネットワークを使い、イベントの掘り起こしなどをしてほしい。ネットワークを広げることしてほしい。</p> <p>③⑦（市議会議員意見） 実際にいってきた等のレポートを是非載せてほしい。内容も尖ったものでいいと思う。</p>
<p>教育・子育て 委員会</p>	<p>①（市議会議員質問） プレコンセプションケアが新城市に足りないと感じた経緯は。</p> <p>（若者議会委員回答） プレコンセプションケアの中には性教育が大きく含まれており、この内容について学校では具体的に学べない。学校で学べる内容以外のことで、学ぶべきことがプレコンセプションケアにはある。それを学べる機会をつくりたいと思った。</p> <p>②（市議会議員質問） プレコンセプションケアの同世代への普及方法について、WHOや行政の取組、政策を利用して参加者を増やすことに努力するのか、若者議会委員がプレコンセプションケアについて理解して、それを広報するのか。</p> <p>（若者議会委員回答） 自分たち自身は、すでに妊娠や出産ができる体の状態になっており、学校でも妊娠や出産、また避妊等について表面的なことは学ぶが、具体的にどうしたらいいのか全く知らない状態。妊娠や出産には自分や人の人生にも関わってくるという中で、命の重さ、大切さをできるだけ皆さんに知ってもらい、新城市全体に広めたいと思っている。</p> <p>③（市議会議員意見） プレコンセプションケアの観点から、人生をしっかり計画していく。そのことを若者議会委員が大切だと思い、足りないので同世代に訴えたいということであれば、私もそれは必要なことだと思う。WHOの取組や行政の政策をうまく盛り込んで、参加者を増やすように努力していけると、より具体的な話になってくると思う。</p> <p>④（市議会議員意見） 今、実際にひとり親、貧困、DV等を望まない妊娠によって引き起こされた人たちというのは、おそらくプレコンセプションケアの教育が足りなかったわけではない人がほとんど。おそらく家庭環境や社会環境などの、その人の生活環境によるものではないか。</p> <p>プレコンセプションケアのイベントやお出かけ講座をする</p>

うえで、より幸せになるためにこの政策が必要と訴える方が、受け手に伝わりやすいのではないか。イベントやお出かけ講座に来る人は、そういう人たちではないか。今、結果的に子どもにDVをしてしまっている人たちは、おそらく幼少時代にこのイベントがあっても来ないのではないか。

自分の周りにはひとり親が多いが、不幸かという、わからない。避妊等の問題で事故的に妊娠したとしても、結果的に幸せな家庭になっていけばいいのではないか。

⑤（市議会議員質問）

昔の感覚でいうと、性教育のイベントに行くと、周りから変な目で見られてしまうのではないかとか、参加するところを人に見られたくないとか思ってしまいが、最近の若者は性に対してオープンなのか。

（若者議会委員回答）

学校では、生理が来たらそれを伝え合ったりして、配慮し合っている。昔よりはオープンに話せる環境になっているように感じる。

（市議会議員質問）

こういったイベントに参加するには少しハードルが高いように感じる。参加者がどのくらい集まるだろうか。

（若者議会委員回答）

プレコンセプションケア＝性教育と考えがちだが、他にも人生設計に関する将来のお金のことなども扱う。命の大切さも、性についても、お金を含む人生のことも考えられる場としてプレコンセプションケアのことを伝えたい。

（市議会議員意見）

お金のことは省いてほしい。若いので、もっと愛がある話でいいのではないか。早いうちからお金を知っても、社会人として能力が低ければ、子どもがいようがいまいが貧乏な人は貧乏。お金がないからといって、子どもを作らないとなってほしくない。幸せになるための教育として進んでほしい。

⑥（市議会議員意見）

自分自身、子育てをしながら学んでいるが、若者が同世代と命や性について考え、話し合うという大切な機会になるのではないかと思う。ただ、あまり若い打ちから真剣に考えすぎて、責任感ばかりを感じてしまって結婚ができなくなってしまうということがないように、お互いを尊重しながら愛を育む若者が増えてほしい。

⑦（市議会議員意見）

この教育を必要とする人はたぶん少ないため、若者議会版  
プレコンセプションケアにしてみてもどうか。

⑧（市議会議員意見）

子どもを産まないこと、結婚しないことによって、1人で  
素晴らしい人生を謳歌しようとする人もいる。この教育によ  
って、子どもの素晴らしさばかりを訴えて、子どもを産まな  
ければいけないというふうになってしまわないようにケアが  
必要。

⑨（市議会議員質問）

昔の学校では、性教育はほとんどなく、女性は別室で行っ  
ていた記憶がある。今はどうだろうか。

（若者議会委員回答）

小・中・高で段階別に性教育が行われている。高校では、  
避妊具の種類やその避妊率などの割と詳細についても教えて  
いる。学校にもよると思うが、今では男女同じ部屋で受けて  
いる学校もある。

（市議会議員質問）

学校でも割とちゃんと性教育を行っているように思える  
が、それ以上に必要とを感じるのか。

（若者議会委員回答）

プレコンセプションケアイベントは16歳から25歳まで  
を対象にされていて、お金の面などの人生設計に関する内容  
も含まれる。そういったものは学校では触れられていない。

⑩（市議会議員質問）

講座内容を作る際には、ドクターや医者等のアドバイスを  
受けるのか。

（若者議会委員回答）

しんしろ助産所と一緒に作っていく。

⑪（市議会議員質問）

プレコンセプションケアについては、委員のみなさんは実  
際に受けているのか。

（若者議会委員回答）

受けている。

⑫（市議会議員質問）

しんしろ助産所で行っているいのちの授業と、プレコンセ  
プションケアでは内容が違うのか。

（若者議会委員回答）

プレコンセプションケアは、日本助産師会が提供している  
1つのプログラムとしてあるが、従来の性教育との違いとい  
えば、性についてだけでなく、その先の将来について、健康

などを含めて考え、意識していくということ。

⑬（市議会議員意見）

自分も、娘の出産を経験し、健康については大事だと感じている。また、34歳での出産だったが、親としてはもう少し早い方がいいと感じた。

若者議会のこれまでの提案事業をいろいろと見てきたが、今年は3つの委員会とも、具体性があり、ターゲットがはっきりしている。期待している。

⑭（市議会議員意見）

今は、世界的に見て、女性はどんどん働いていて、キャリアを追求していいという風潮があり、むしろ家庭に入ってお母さんだけをやるということがまるで悪いことかのように扱われている。

自分自身も、いつかは妊娠したいと思いつつも、世界の風潮のように、キャリアを積んでからでもいいと思っていた。結局自分は36歳で子どもを産んだが、本当はもう1人ほしかったけどなかなかできなかった。

自分の場合で考えると、卵子のことや、出産年齢に制限があることなどを正しく教えてほしかった。

⑮（市議会議員意見）

世界の風潮で女性がどんどん働くことばかりを伝えるような内容はやめてほしい。子どもが生まれなければ、人口がどんどん減って行って社会が成り立たなくなる。

女性でも、子育てよりも仕事の方が得意という人もいて、そういう方が差別されてしまうのはよくないが、だからといって、男女平等の意味がはき違えられることはいけない。社会で働くことだけが男女平等ということであれば、それは生物学的なことを全く無視してしまっている。

（若者議会委員意見）

自分も結婚よりキャリアを大切にしたいと思っていたが、プレコンセプションケアで、妊娠にも期限があることを知った。プレコンセプションケアを聞いて、男性も女性もお互いの身体について正しく知り、理解していけるといい。

⑯（市議会議員意見）

子どもの成長を長い目で見たときに、家庭環境は大切。イギリスでの生活をとおしてもそれを感じた。

（若者議会委員質問）

イギリスでは性教育や女性の社会進出についてはどうだったか。

（市議会議員意見）

専業主婦はほとんどおらず、悪いことのようにしている。男性は家事が苦手な人が多い中で、家庭と仕事を男女五分五分でやろうとしているので、うまくいかず、離婚率も高い。

⑰（市議会議員質問）

プレコンセプションケアイベントについて、年2回実施すること、規模を10人～20人とすることとなった経緯は。

（若者議会委員回答）

実際にイベントを実施するしんしろ助産所は人数が少ないため、開催回数には限度があり、参加者数についても人数が多すぎると理解の深い講座を実施しにくくなってしまわないかという点で、今の形となった。

⑱（市議会議員質問）

お出かけ講座のチラシは具体的にどのように配るのか。

（若者議会委員回答）

企業へは、商工会を通じて配布する。学校については、児童生徒ではなく教員へ配布する予定。実際にお出かけ講座を申し込むのは教員であるため、その方が効果的だと考えている。また、学校へは養護教諭の集まり等へ出向き、性教育の必要性などの簡単な説明もする予定。

⑲（市議会議員質問）

難しいテーマの政策に感じるが、これを考えた経緯は。

（若者議会委員回答）

自分たち若者には性教育が足りないと感じていたところ、しんしろ助産所からプレコンセプションケアについてお話しいただき、自分たちがやろうとしていた性教育などと考え方がマッチしたため。若者がプレコンセプションケアの講座を受けて正しい知識を身につけることは、自分たちが将来結婚して子どもを育てる側になった際に役立つ。

⑳（市議会議員質問）

委員のみなさんは実際にプレコンセプションケアの講座は受けたうえで、やった方がいいと思ったのか。

（若者議会委員回答）

受けてそう思った。

政策について考え始めた当初は、子育て世帯へのアプローチを考えており、市内で子育て支援をしている団体や周りの子育て世帯へのヒアリング等を通じて、そもそも自分たちが子育てについて何も知らないという現状があることに気付いた。そこから、自分たち若者をターゲットにして、若者が将来について考えるようなきっかけを普及したいと思った。そ

れが将来の子育てに対する支援にもつながると考えている。

② (市議会議員質問)

プレコンセプションケアイベントについて、規模が1回あたり10人～20人で、年2回実施するということであるが、この規模感でいいのか。

(若者議会委員回答)

委員会では当初、もっと回数を増やして実施したいと考えていたが、担当課であるしんしろ助産所と話をしていく中で、職員の人数が少なく多忙になってしまうということがあった。また、1回あたりの人数についても、多すぎると講座の質を保てなくなってしまうと考えた。

② (市議会議員質問)

プレコンセプションケアイベントに参加しない方は、お出かけ講座の普及をして周知していくという認識でよかったか。

(若者議会委員回答)

そういう認識。

③ (若者議会委員質問)

イベントについて、若者への周知は1つの課題と考えている。より多くの人に来てもらえるような工夫について、アドバイスをいただきたい。

(市議会議員回答)

広報の仕方は、3つの委員会に共通して重要。この辺りのユーザーで一番多いのはTwitterかInstagram。Instagramの広告は、地域や年齢を絞れるので、対象者へPRしやすい。

④ (市議会議員質問)

昔は性教育について、とてもクローズだった。今は割とオープンに話せるようになっているのか。

(若者議会委員回答)

今の大学生と高校生でもギャップがある。

一応、小・中・高と性教育の授業はあり、結構踏み込んだ話をしてくれる先生もいる。学校にもよると思うが、高校では割とオープンに話せているように感じる。

⑤ (市議会議員質問)

お出かけ講座の対象者が、小・中・高の先生や保護者、それから企業となっているが、そこに何を期待しているのか。

(若者議会委員回答)

お出かけ講座を依頼する人となる先生や企業に周知することで、児童生徒や従業員等が講座を受けられるようになる。

②⑥（市議会議員意見）

プレコンセプションケアについて、男性も一緒になって学ぶという点等で、ジェンダーレスの面でも重要だと感じた。

②⑦（市議会議員質問）

プレコンセプションケアの内容はどのようなものか。

（若者議会委員回答）

男女の体の仕組みや、女性の妊娠の年齢、赤ちゃんの成長等について、いろいろな内容が含まれている。

食生活などの健康についても学ぶ。学校では、食に関することは家庭科、性教育については保健というふうに、縦割りで学ぶ仕組みになっているが、プレコンセプションケアでは、これらのことを1つのつながりとして学ぶことができる。

②⑧（市議会議員質問）

最近では、仕事を続けていきたい女性も多くいるし、企業もそういった環境を推進する努力をしている。そういった中で、晩婚化が進み、妊娠等が遅くなっている現状もあり、不妊治療を受ける方もいる。

プレコンセプションケアのイベントをとおし、どんな成果を期待するか。また、コンセプトを伺いたい。

（若者議会委員回答）

学生が妊娠しても、責任を持つことはなかなか難しい。そういったことを予防することができる。また、妊娠適齢期等についても学ぶため、人生設計を考えることができる。講座を受けた方が結婚して子どもを産むか産まないかというのは、個人の自由になるが、そういった知識を得たうえで選択をするということが非常に大事だと思う。若いうちからそういったことを学ぶようにしたい。

事業名にもあるように、最終的には明るい未来を目指すもの。若者が正しい知識を得て、将来の選択肢の1つとして捉えてもらい、人生設計について考えるきっかけを作れるといい。

②⑨（市議会議員質問）

講師は何人いるのか。どんな人か。

（若者議会委員回答）

しんしろ助産所の助産師で、自分たちに話をしてくれたのは2名。プレコンセプションケアの講座を行えるのは、専門の授業を受けた人。

③⑩（市議会議員質問）

有教館高校では割と性教育についての授業もやっているよ

	<p>うに感じたが、それと比べても、プレコンセプションケアはもっと深い内容が学べるのか。</p> <p>(若者議会委員回答)</p> <p>プレコンセプションケアでは、学校で習うよりも具体的な費用のことや、胎児の成長の過程について、より知ることができる。</p> <p>⑳ (市議会議員質問)</p> <p>プレコンセプションケアを受けて意識が変わったことはあるか。</p> <p>(若者議会委員回答)</p> <p>性というものが、単にいやらしいものではなく、非常に重要なものだということがよくわかった。そのことにより、以前よりもオープンに話せるようになったと感じている。</p>
--	---

#### 4 市議会議長あいさつ

終了時間：午後 9 時